

研究代表者氏名	渡 辺 千 仞			研究組織	2 人	
所属機関・部局・職	東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授			所属機関所在地	目黒区	
研究課題名	社会経済への浸透過程における技術の性格形成メカニズム（製造技術と IT との比較分析）					
研究の概要等	<p>日本は 1980 年代のハイテクミラクルにもかかわらず、1990 年代以降の情報化社会においては、IT の革新・活用において米国等に大きく立ち遅れるに至った。これは、その社会経済体質がかつてのような柔軟性を発揮できず、IT の成果をフルに活用できないまま経済を停滞させ、社会経済体質を更に硬直化させるという悪循環に陥ったことによる。</p> <p>その原因は、製造技術と IT との性格形成過程にあり、前者が開発者によって供給時点に決定されたのに対して、IT は社会経済全体が利用過程に新たな性格を付与し、それが更に利用を拡大・高度化させるという構造を内包していることによるが、そのメカニズムは未解明である。</p> <p>本研究は、この解明をねらいに、日米欧 APEC の代表的な IT 集積地を対象に、比較国際経済・技術地政論・経済社会論及び比較制度論等学際的アプローチをベースに、現地踏査，経年観測，アンケート・インタビュー，資料収集等を重ね、工業化社会と情報化社会における社会経済体質の柔軟性発揮状況の比較検証、社会経済体質の柔軟性と IT の革新・活用との相関分析、製造技術と IT との性格形成主体・支配要因の比較抽出、を通じ、IT の性格形成メカニズムの解明を図る。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	渡辺 千仞 『技術革新の計量分析』（日科技連，2001） C. Watanabe, R. Kondo, N. Ouchi and H. Wei, “ Formation of IT Features through Interaction with Institutional Systems - Empirical Evidence of Unique Epidemic Behavior, ” Technovation, 2001 (inprint)					
研究期間	平成 14 年度～ 18 年度（5 年間）					
研究経費（15 年度以降は内約額）	平成 14 年度 千円 12,700	平成 15 年度 千円 15,800	平成 16 年度 千円 18,200	平成 17 年度 千円 19,000	平成 18 年度 千円 10,300	合計 千円 76,000
ホームページアドレス	<a href="http://www.me.titech.ac.jp/~wata_lab/">http://www.me.titech.ac.jp/~wata_lab/</a>					